

# 日本個人投資家のリスク性資産への投資行動 —金融リテラシーの種類や情報源の違いはどんな影響を与えるのか？

一橋大学大学院生 顔 菊馨

京都橘大学 近藤 隆則

青山学院大学 白須 洋子

一橋大学 三隅 隆司

## 〈要旨〉

本稿は、投資家の資産選択行動及び投資成果に対して、危険回避度、情報源及び金融リテラシーが与える影響について、日本の個人投資家を対象としたインターネット・アンケート調査結果を分析したものである。本研究から導き出された結果は主として以下の3点である。第1に、投資家のリスク回避度は、株式保有には影響を与えない一方で、投資信託、特にインデックス型以外の投資信託の保有に対して、その保有を抑制する有意な影響を有していることが観察された。第2に、情報源については、インデックス型投資信託及びインデックス型投資信託以外の投資信託を含んだ投資信託全般を保有する場合、または正の投資リターンを獲得する時には、専門家の助言が有益である。これは、株式と比較して、投資信託はより複雑な商品性を有するからであると考えられる。第3に、金融リテラシーについては、リスク性資産保有の選択において、証券投資の基礎理論に関する知識の程度を測る基礎的金融リテラシーのみではなく、実際に取引する際に必要な金融商品や取引制度に関する知識の程度を測る応用的金融リテラシーが高いほど、株式及び投資信託などのリスク性資産に投資する傾向を持つことが確認された。

本稿の結果は、個人投資家(家計)の金融行動を「貯蓄から資産形成へ」転換させるといふ日本の金融界(金融当局および金融機関)における喫緊の重要課題への取り組みの方針を考えうえで有益なインプリケーションを与え得るものと考えられる。